



笠小牧市史

追補編

笠小牧市

市街地及び周辺地の変化

駅前通り



昭和31年の苫小牧駅前（表町・王子町）



平成10年の苫小牧駅前（表町・王子町）

駅前通り



昭和48年の苫小牧駅前通り（錦町）



昭和40年の駅前通り（十字街）

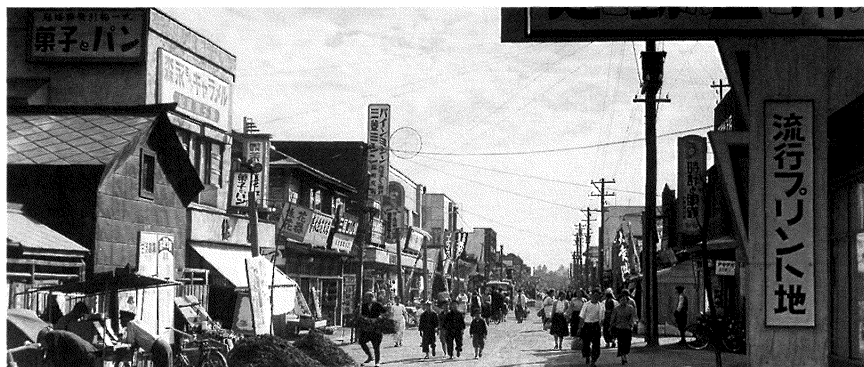


昭和48年の駅前通りの一角（パチンコ店前）



平成10年の苫小牧駅前通り（錦町）

一条通り



昭和33年の一条通り



昭和42年の一条通り



平成10年の一条通り

国道36号



昭和45年の国道36号（王子不動産第一ビルより）



平成13年の国道36号（王子不動産第一ビルより）

王子通り



昭和38年の王子通り（アリーナ通り）



王子通りに面した王子製紙スケートセンター

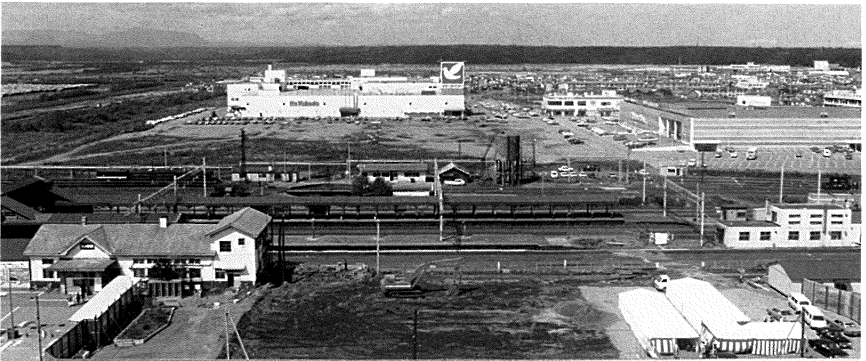


平成13年の王子通り（アリーナ通り）

駅前・駅裏地区



昭和35年の駅裏（旧岩倉組）一帯



昭和56年の苫小牧駅前・駅裏

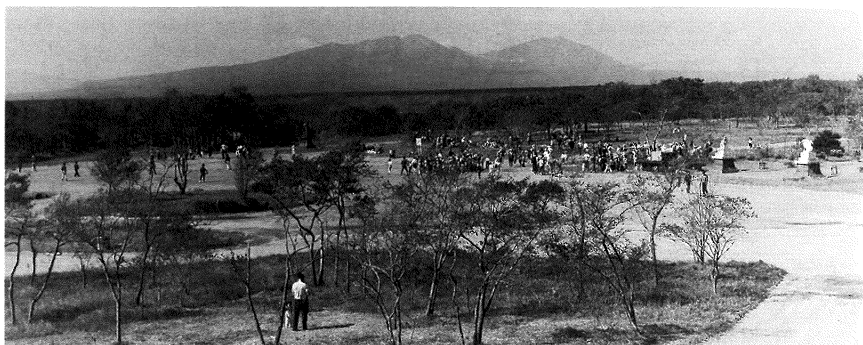


平成12年の苫小牧駅前・駅裏

美園町地区



緑ヶ丘公園頂上から見た昭和39年の美園方面

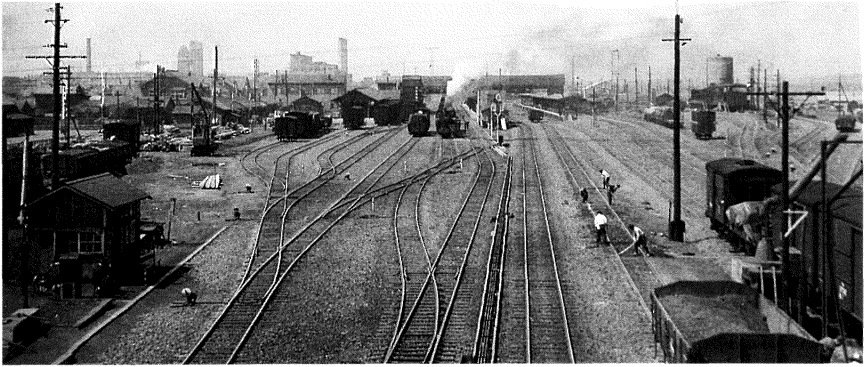


昭和39年の緑ヶ丘公園展望台付近



緑ヶ丘公園頂上から見た平成13年の美園町方面

苫小牧駅構内



昭和45年の苫小牧駅構内



平成13年の苫小牧駅構内



平成13年の苫小牧駅ホーム

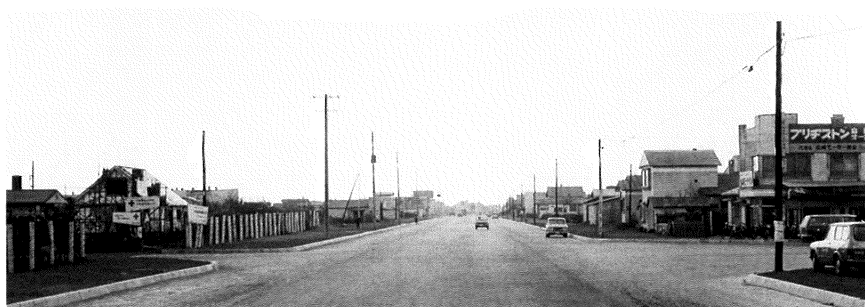


昭和58年の苫小牧駅ホーム

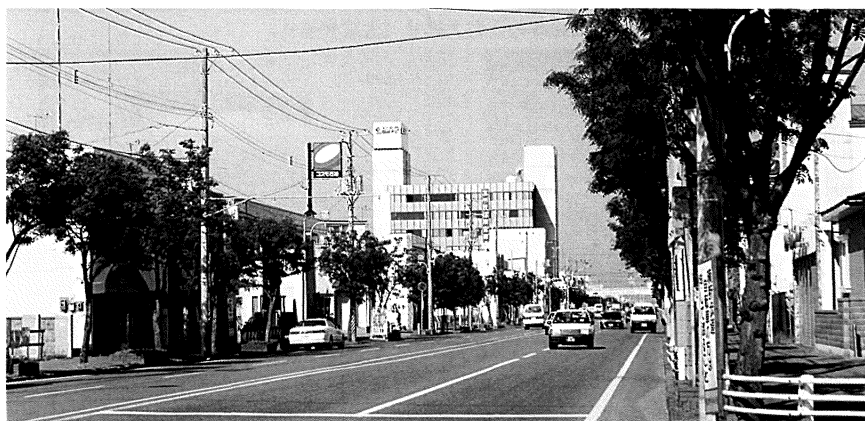
音羽町・双葉町



昭和40年の緑町2条通り

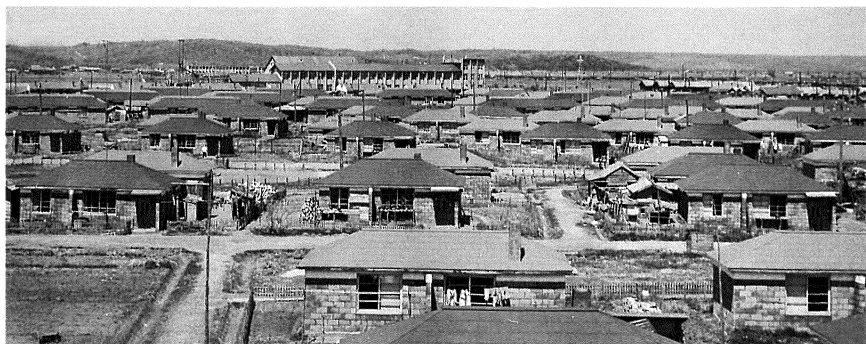


昭和41年の双葉大通り



平成13年の緑町2条通り

弥生町・大成町



昭和38年の西町（大成町）公営住宅街



平成10年の西町大通り（大成大通り）

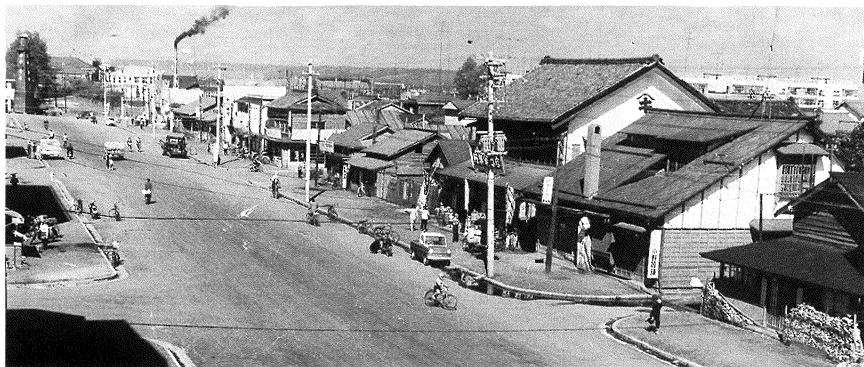


平成10年の弥生町（三条通り）

新川通り（大町・本町）



新川のある新川通り（昭和30年）

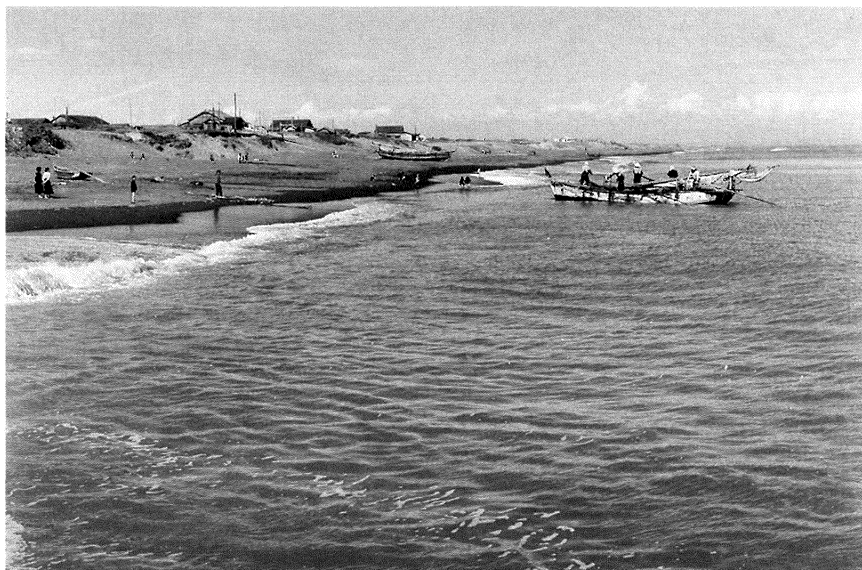


昭和44年の新川通り



平成13年の新川通り

苫小牧海岸



昭和30年の苫小牧海岸（汐見町）



平成13年の苫小牧海岸（ふるさと海岸）



苫小牧市史追補編の発刊にあたって

苫小牧市長 鳥越 忠行

苫小牧市は平成十年（一九九八）に市制施行五〇周年を迎え、記念式典をはじめとし、各種行事、事業を行いました。この『苫小牧市史追補編』の発刊もその事業の一環として行うものです。

これまで本市は、『苫小牧市史』を発刊しておりますが、これは昭和五十年（七五）の出来事をもって終わっており、その後の本市の本格的な歴史書はありませんでした。このため、各方面から市史編集を進めて欲しいとの要望があり、平成七年（九五）九月に設置された市制施行五〇周年記念事業等市民委員会からも市史追補編の発刊があげられました。

本市としてもその必要性を認め、平成八年（九六）五月に市史編集事務局を設置して、その編集事業に取り掛かりました。

苫小牧市は一貫して港湾建設と勇払原野の開発に努力してまいりましたが、昭和三十八年（六三）四月に苫小牧港が供用開始となり、待望の第一船を迎えました。これにより勇払原野の開発も進み、苫小牧港を中心に臨海工業地帯が形成され、さらに苫小牧東部の開発へと発展してい

きました。

これにより紙・パルプ産業に加え、石油、自動車、アルミニウムなどの大型企業をはじめ、各種企業の進出もあり、工業生産額は道内の一パーセント以上を占めています。苫小牧港も石炭積出港から流通港、フリー基地、国際貿易港として発展を続けています。

しかしながら、バブルの崩壊はわが国の産業構造や経済情勢に大きな影響を与え、苫東開発も停滞を続けることになりました。

昭和五十年以降の苫小牧は、工業開発と自然保護とが調和した時代になるよう望んできましたが、これらがしばしば社会問題として対立した時代でもありました。苫東開発、千歳川放水路、新千歳空港問題、環境問題がその代表であり、本市は他の自治体にはあまり見られない特異な歴史が展開されました。

苫東開発は新たなかたちで再出発することになり、これからいろいろな難関に遭遇するだろうと思います。過去を知ることが現在を正しく認識するためにも、重要なことであり、本書がこの意味で活用されれば幸いに存じます。

平成十三年三月二十日

例 言

一、本史は苫小牧市史追補編とし、第一編政治・行政、第二編産業・経済、第三編教育・文化、第四編社会・衛生、第五編交通・通信、第六編公安・災害・環境、第七編建設・公共事業、第八編年表の八編から構成し、主に昭和五十年以降の本市の歴史事項について収録した。

二、本文での漢字及びかなづかいについては、常用漢字と現代かなづかいに従い、引用文献については出来るだけ原文のままとした。なお、専門語、時代用語などはそのまま生かした。数量はできるだけメートル法によった。

三、引用文は「」で囲み、あるいはやや小さな文字を用いて字下げを行い、本文と区別した。また、句読点、濁点等を付して読みやすくすることにとめた。

四、引用文、図表にはその出典を明らかにするため、文献名、資料名を表記し、一部引用については本文中に注記した。写真については出典、所有を省略した。

五、年代の表示は年号を用い、カッコ書きにて西暦を付記した。原則として同ページ内のカッコ書きは西暦の前二字を略し、（一九五〇）は（五〇）のように記した。ただし、本文の内容が変わったり、世紀をこえたものは四字で表した。

六、書名については『』で、法規などは「」書きとした。

七、本史本文に収録した人々はその性格から総て敬語を省いた。

苫小牧市史編集事務局長

堀江敏夫

苦小牧市史 追補編

目次

苦小牧市史追補編の発刊にあたって

苦小牧市長 鳥越忠行……………(16)

例言……………(18)

第一編 政治・行政……………1

第一章 市政の進展と政策……………3

第一節 各市長と助役、収入役の引退（退陣）と登場……………3

一、大泉源郎市長の引退……………3

二、板谷民間出身市長の登場……………11

三、鳥越革新市長の登場……………14

四、歴代助役と収入役の就任と退任……………20

第二節 市基本構想と市制五〇周年……………28

一、苦小牧市基本構想……………28

二、苦小牧市総合計画……………33

三、市制施行五〇周年……………46

第三節 市庁舎の改築と行政改革	59
一、市庁舎の改築	59
二、行政改革への取り組み	73
三、行政事務・業務の改善	84
第四節 名誉市民・市政顧問と各種表彰	100
一、名誉市民と市政顧問	100
二、各種表彰	107
第五節 姉妹都市・友好都市と姉妹港・友好港	120
一、姉妹都市と友好都市	120
二、姉妹港と友好港・その他の姉妹関係締結	134
第六節 市民憲章と各種宣言・登録	140
一、市民憲章と市の木・花・鳥	140
二、苦小牧市の各種宣言と登録	149
第七節 まちづくりと指定都市	161
一、拠点都市の指定	161
二、テクノポリス	166
三、市民のまちづくり活動	174
第八節 市政の諸問題とその対応	179

一、千歳川放水路と新千歳空港の開港	179
二、国際エアーカーゴと空港周辺地域整備	201
三、その他の問題とその対応	213
第二章 財政と選挙・議会	229
第一節 財務と税務	229
一、市財政の変遷	229
二、苦小牧市の税務	242
三、苦小牧市の各会計の変化	250
第二節 各種選挙	291
一、選挙の変遷	291
二、国政選挙の結果	303
三、地方選挙の結果	312
第三節 苦小牧市議会	328
一、市議会の変遷	328
二、各委員会の設置と活動	336
第三章 人口と住居表示	339
第一節 人口の変遷	339
一、苦小牧市の人口増加率とその特徴	339

二、国勢調査と各種統計	350
第二節 住居表示と町名設定	367
一、住居表示制度の実施と昭和四十九年までの新町名設定	367
二、昭和五十年以降の住居表示の実施と新町名の設定	374
第二編 産業・経済	405
第一章 農林水産業	407
第一節 農業・牧畜業	407
一、苫小牧農業の変化と減少	407
二、農業委員会と農業協同組合	422
第二節 牧畜業とバイオ牛	430
一、牧畜業の変化	430
二、和牛振興と樽前牛	434
第三節 林業	437
一、林業の低迷	437
二、森林組合と大学演習林	442
第四節 漁業	448
一、苫小牧漁業の変遷	448

二、 苫小牧港漁港区の供用	457
三、 ふ化事業と養殖事業	463
第二章 工業の進展と変化	481
第一節 苫小牧工業の特質	481
一、 苫小牧の工業地帯	481
二、 工業出荷額と地域産業教育機関	505
三、 紙パルプ産業	514
四、 その他の既存企業	528
第二節 苫小牧西部工業団地進出の主要企業	532
一、 第一期進出企業（昭和期）	532
二、 第二期進出企業（平成期）	544
三、 撤退した企業	551
第三節 苫東開発地域進出の主要企業	554
一 エネルギー産業	554
二、 機械産業等	579
第四節 鉱業・ガス	587
一、 苫小牧の鉱業	587
二、 石油・ガス	588

第三章 経済と金融	595
第一節 地元経済界の動向	595
一、商工会議所と各種団体	595
二、商店街振興組合	611
第二節 再開発と経済効果	614
一、中心市街地再開発事業	614
二、駅前再開発と駅裏開発	624
第三節 金融機関	628
一、バブル崩壊による銀行の変化	628
二、信用金庫と郵便局	632
第四節 ホテル業界	640
一、ホテル業の進出	640
二、リゾートホテルと大型ホテル	644
第四章 商業	649
第一節 苦小牧商業の現況	649
一、苦小牧の商店街の変貌	649
二、苦小牧の商業近代化計画と商業振興策	655
第二節 大型店の進出	665

一、大店法の施行と苦小牧市・商工会議所の対応	665
二、進出した大手スーパー	671
三、百貨店の移転と新設	677
第三節 市設市場と新ショッピング街	683
一、卸売市場と小売市場	683
二、主な新ショッピング街	691
第四節 苦小牧市内の飲食店の変遷	707
一、市内の飲食店の変化	707
第三編 教育・文化	717
第一章 新しい教育の振興と問題点	719
第一節 教育機関と教育団体	719
一、教育行政機関	719
二、教育機関と教育団体	724
三、学校給食と学校保健	731
第二節 教育の抱える問題点	736
一、新しい問題への取り組み	736
二、特殊教育の変遷	751

三、教育の問題点	759
第二章 教育施設の変遷と充実	769
第一節 学校教育の編成と充実	769
一、市街地の拡大と幼稚園の新設	769
二、小学校の新設と廃校	776
三、特認校の指定と特殊分校	793
四、中学校の新設	798
五、高等学校の新設	809
六、高専・短大・大学の新設	822
七、専修学校・専門学校と各種学校	827
第三章 生涯学習	831
第一節 生涯学習と青少年問題	831
一、生涯学習推進計画	831
二、生涯学習施設	837
三、青少年問題	864
四、児童施設	870
第二節 文化振興	874
一、文化振興と文化財	874

第四章	スポーツ都市苦小牧	887
第一節	スポーツ都市宣言と施設	887
一、	スポーツ都市宣言と協会・連盟	887
二、	スポーツ施設の充実	899
第二節	スポーツ育成と各賞の受賞	927
一、	スポーツ育成活動	927
二、	各賞の受賞・表彰	931
第三節	各種大会の開催	932
一、	全国大会の開催	932
二、	インターハイ・インカレの開催	936
第四節	アイスホッケー	941
一、	実業団アイスホッケー	941
二、	その他のアイスホッケー大会	949
第五節	スピードスケート	978
一、	活躍した実業団・高校選手	978
二、	高校スピードスケート	984
三、	中学スピードスケート	988
第六節	野球	991

第四編 社会・衛生

一、社会人野球	991
二、高校野球	995
三、中学野球	999
四、その他の野球	1000
第七節 その他のスポーツ	1006
一、陸上競技とマラソン	1006
二、その他のスポーツ	1020
第五章 観光とまつり	1025
第一節 苦小牧の観光資源	1025
一、苦小牧観光協会と観光対策	1025
二、観光地・観光資源の変化	1030
三、娯楽施設	1045
第二節 各種まつりと市民	1049
一、苦小牧のまつり	1049
二、市民おどりと郷土の歌	1060
三、ミス苦小牧	1061
1065	

第一章	福祉社会と高齢化社会	1067
第一節	苦小牧市の福祉政策	1067
一、	福祉政策と各種制度	1067
二、	地域福祉活動と福祉団体	1078
第二節	高齢者対策	1092
一、	老人福祉対策	1092
二、	介護保険制度の開始	1105
第三節	心身障害者（児）の福祉	1115
一、	障害者福祉施設の変化	1115
二、	障害者への援護施策	1119
三、	障害者福祉施設と団体	1122
第四節	児童と家庭の福祉	1130
一、	児童福祉	1130
二、	母子・父子福祉	1140
第五節	生活保護	1149
一、	苦小牧市における生活保護の現状	1149
第二章	衛生と医療	1155
第一節	衛生	1155

一、清掃事業	1155
二、産業廃棄物	1169
三、墓地と火葬場	1175
第二節 保健衛生	1181
一、苦小牧の保健衛生の現状	1181
二、食中毒とエイズ対策	1189
第三節 医療	1197
一、苦小牧の医療施設	1197
二、主な医療機関と看護婦（士）養成機関	1209
第三章 労働と宗教	1225
第一節 労政対策と労働組合	1225
一、労働対策調査と労働福祉センター	1225
二、労働組合の変遷	1232
第二節 宗教	1238
一、生活と宗教	1238
二、昭和五十年以降における主な神社の変化	1244
三、昭和五十年以降における主な教会等の変化	1248

第五編 交通・通信……………1251

第一章 交 通……………1253

第二節 交通機関の変化と発達……………1253

一、自家用車の普及と道路整備……………1253

二、交通事故と安全対策……………1263

三、交通施設の設置……………1276

第二節 各種交通機関……………1287

一、鉄 道……………1287

二、陸上交通……………1303

三、海上交通……………1316

第三節 バスとハイヤー……………1327

一、市営バスと民間バス……………1327

二、ハイヤー・タクシー……………1342

第二章 郵便・通信・エネルギー事業……………1353

第一節 郵便事業と郵便局……………1353

一、郵便事業……………1353

二、昭和五十年以降の郵便局の変遷……………1362

第二章 通信事業	1368
一、通信業務の分化と新業者の登場	1368
二、電話と電報	1374
第三節 エネルギー事業	1377
一、電力	1377
二、ガスと集中暖房	1381
第六編 公安・災害・環境	1387
第一章 公安	1389
第一節 警察	1389
一、警察署	1389
二、犯罪事件	1394
第二節 司法機関	1396
一、裁判所	1396
二、検察庁	1399
三、法務局	1399
第二章 消防・防災	1403
第一節 消防	1403

一、消防体制の強化	1403
二、火災発生状況	1414
第二節 防 災	1423
一、防災計画	1423
二、防災会議	1427
第三章 災害と公害	1433
第一節 測候所と気象状況	1433
一、測候所	1433
二、主な気象状況	1434
第二節 樽前山の噴火	1435
一、噴火の状況	1435
二、火山災害対策と施設	1441
第三節 自然災害状況	1448
一、台風の被害	1448
二、集中豪雨・大雨	1450
三、地 震	1455
第四章 公害対策と環境問題	1461
第一節 公害対策	1461

一、公害防止計画	1461
二、公害監視施設	1471
第二節 自然保護	1477
一、自然保護対策	1477
第七編 建設・公共事業	1499
第一章 苫小牧港	1501
第一節 苫小牧港の充実と発展	1501
一、苫小牧港の管理と運用	1501
二、苫小牧港の諸事項	1508
三、港勢と港湾統計	1522
第二節 苫小牧港の整備	1529
一、西港区の整備状況と現況	1529
二、東港区の整備状況と計画	1548
三、港湾整備計画と施設状況	1558
四、勇払マリーナとふるさと海岸	1570
第三節 カーフェリー	1579
一、フェリー施設の概要	1579

二、フェリーバースの新設……………	1586
三、東港のフェリー基地化……………	1588
第二章 苦小牧東部の開発……………	1593
第一節 苦小牧東部の開発計画……………	1593
一、初期の苦小牧東部の開発計画……………	1593
二、苦小牧東部開発株式会社と主な進出企業……………	1599
第二節 苦東開発の見直しと新計画……………	1615
一、苦東開発の見直し計画……………	1615
二、苦東新計画の決定……………	1620
三、苦東への進出企業……………	1626
四、苦東新計画の段階計画……………	1631
五、株式会社「苦東」の設立と市基本計画の見直し……………	1636
第三章 土木・公共事業……………	1643
第一節 土木事業……………	1643
一、苦小牧川の切り替え……………	1643
二、公園整備と緑化事業……………	1649
三、区画整理と新住宅用地……………	1659
第二節 道路整備……………	1666

一、都市計画と道路整備……………	1666
二、シンボルストリートとその他の道路整備……………	1673
第八編 年表(昭和五十二年以降)……………	1681
あとがき……………	1727
●題 字 二階堂北翠(元北海道書道展・創玄書道審査員)	
●写真提供 見返し 市街地航空写真 株式会社志方写真工芸社	
●口 絵 市街地及び周辺地の変化写真集……………	(3) (14)

